

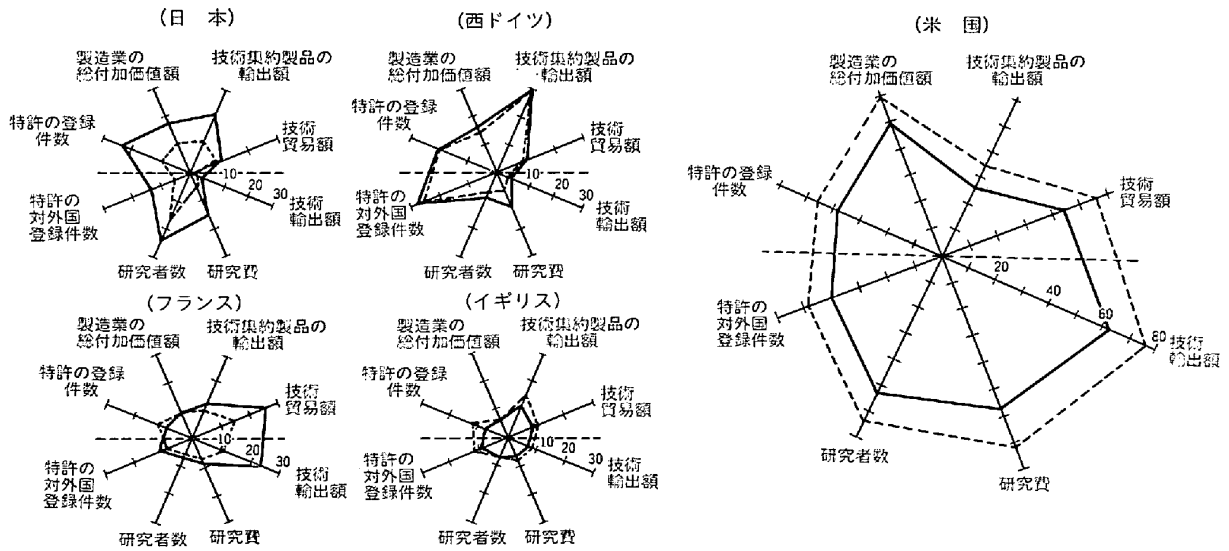
- 上, 65 (1979), p. 681
- 11) 円山 弘: 熱処理, 17 (1977), p. 198
- 12) 山田 真, 新倉正和, 田中淳一, 市之瀬弘之: 鉄と鋼, 61 (1975), A41
- 13) 須藤 一: 日本金属学会会報, 14 (1975), p. 681
- 14) 例えば G. R. BROPY and A. J. MILLER: Trans. ASM, 41 (1949), p. 1185
- 15) 荒木 透, 佐川竜平, 柴田浩司, 長井 寿: 鉄と鋼, 60 (1974), S623
- 16) J. TANAKA, S. TANI, and C. OUCHI: Trans. ISIJ, 15 (1975), p. 19
- 17) T. HESLOP and N. J. PETCH: Phil. Mag., 3 (1958), p. 1128
- 18) L. MEYER, H. BUHLER, and F. HEISTERKAMP: Thyssen Forschung, 3(1971), p. 8
- 19) 大森靖也: 鉄と鋼, 65 (1979), p. 126
- 20) 柴田浩司, 長井 寿, 藤田利夫, 姫野 誠, 村上雅人: 日本金属学会講演大会概要集 (1979・10) S6・4
- 21) 長井 寿, 柴田浩司, 藤田利夫, 氏家義太郎: 鉄と鋼, 67 (1981), S520
- 22) 高野俊夫, 山田 真, 田中淳一: 同上, 65 (1979), S875
- 23) H. HAGA: Trans. ISIJ, 13 (1973), p. 141
- 24) C. K. SYN, B. FULTZ, and J. W. MORRIS, Jr.: Met. Trans., 9A (1978), p. 1635
- 25) K. J. KIM and L. H. SCHWARTZ: Met. Sci. Eng., 33 (1978), p. 5
- 26) 村上雅人, 長井 寿, 柴田浩司, 藤田利夫: 鉄と鋼, 66 (1980), S1065

統 計

主要国における科学技術の総合力を示す各種指標

図の上半分の大きさは現在各国が保有している技術力の大きさ, 下半分の大きさは同じく技術開発力の大きさの傾向を示している. 日本, 西ドイツ及びフラン

スが着実に力をつけて来ていることが明らかである. しかし, 日本及び西ドイツは技術力ではかなり米国に追いついてきたものの, 技術開発力ではまだ大差がある. 日本及び西ドイツは図の左側が, フランスは右側が大きく, 米国とイギリスはバランスがとれている.



注) 1. -----部: 1960年代後半, —部1970年代後半
 2. 数字は各指標の5カ国合計を100とした時の各国の指数を表す.
 3. 米国およびフランスの研究費および研究者数は人文・社会学を含む.

(科学技術庁編: 昭和 56 年版科学技術白書 p. 8, 図 1-1-5)